

キャベツの早春まき6月どり栽培技術

本県中南部の6月どりキャベツ栽培では、定植後の生育促進技術と作期の組み合わせにより6月上旬～下旬の連続収穫が可能となる。

積雪地帯の場合、前年中にマルチまでの圃場準備をしておくことで定植作業を早めることが可能となる。

目標収穫期	作 期		生育促進技術	
	播 種 期	定 植 期	マ ル チ	べたがけ
6月上旬	2月中～下旬	3月中～下旬	前年マルチ (透明が適)	有
6月中旬	3月上～中旬	4月上～中旬		
6月下旬			無	無

表1 前年作畦マルチ栽培におけるマルチ展帳方法と生育・収量

試 験 区 名	結球期 (月日)	収穫期 (月日)	調整重 (g)	球緊度	球径 (cm)	球高 (cm)
全マル・黒 (早)	5.11	6. 2	1151	0.46	16.7	13.6
全マル・黒 (遅)	5.11	6. 2	947	0.49	15.6	12.3
全マル・透明(遅)	5. 9	6. 2	1241	0.51	17.2	13.4
平マル・黒 (遅)	5.16	6. 2	1103	0.47	16.5	13.8
平マル・透明(遅)	5. 9	6. 2	1299	0.50	17.3	14.2

播種期：2月12日、定植期：3月18日

マルチ被覆 早：施肥・作畦当日

遅：施肥・作畦2週間後

前年作畦では、肥料分の溶脱を避けるため施肥・作畦後直ちにマルチ被覆を行う。

また、全面マルチと平高マルチの違いによる生育差は小さいが、春先の作業性を考慮に入れると全面マルチが効果的である。



写真1 べたがけ除去後のキャベツの生育

べたがけを被覆する期間は、定植直後から結球開始直前までとするが、最高気温で18℃以上の日が続くと予想されるときは除去する。